

夏の保育医学

平 井 信 義

(一)

夏という季節は、子供たちにとつては大変重要な季節です。これ迄丈夫だった子供は、更に丈夫にすることが出来ますし、この冬に風邪ばかり引いていた、という子供も、夏を利用して丈夫にすることが出来ます。

一方、暑さと湿度とは子供の体を弱め、ばい菌の繁殖を助けますので、子供の病気がふえる時でもあります。殊に消化器の病気、即ち下痢、腸炎や赤痢（疫痢）にかかり易くなりますし、日本脳炎という恐ろしい病氣も流行します。従つて、こうした病氣から子供たちを守らなくてはなりません。

ところが、之らに対する対策を、真剣に考えている親は案外少ないものです。その結果、無駄に夏を過し、或いは病氣をさせてしまつて却つて子供を弱くしてしまつていく親が相当います。非常に残念なことといえます。

そこで子供の教育、保育にたずさわつておられる先生方に、「夏をよく過させるた

めに、親たちに向つてよい忠言をして頂きたいと思います。それには先ず、夏即ち七八ヶ月の日課と行事との計画をお母さんに樹てさせてはいかでしよう。それを検討しながら、子供たちにも「よい子の夏の過ごし方」について、お話をきかせてはいかがでしよう。

家庭ですつと夏を過す子供には、早起・早寝は是非励行させたいものです。早寝をさせるためには早起きが大切ですから、何か朝のお手伝いをきめるとよいと思います。小鳥や鶏・草花の世話でもよく、お庭や門の前のお掃除でもよいでしよう。大体きまつた時間に起きる——その自立をつけるためには、日ごまし時計を貸し与えるのも一つの方法であることを教えましよう。

日課表を時計の様に書いてくるよう。お母さんに云うのもよいと思います。その際、お昼寝の時間を設けることを忘れぬよう。

海や山にいく計画のある子供にも生活が乱れぬよう、乱れた生活は、やがて秋から冬になつて病氣をする源となることを教えましよう。家を

夏季保育誌上講習会

はなれると、附添つてゐる母親までが氣を許して、夜更しや朝寝坊のくせを身につけてしまいますから、その点ユーモアを混えて注意して頂きたいと思います。又、避暑地の衛生状況をよく調べておくことは当然で昨年も赤痢の流行地へわざわざ出かけることになった子供たちもありました。

海や山へ、短時日子供を連れていくことは感心しません。殊に日帰りの無理な行程には反対したいと思います。毎年、帰つて来た晩から熱を出した、脳炎にかかつたという例が、沢山あります。海や山の効果は三週間位の滞在の後にはじめて現れるものであることを、お母さん方に知らせて頂きたいと思います。日帰りの電車や汽車の中で、一日で日焼して熱をもつた顔で母子ともども折重なつて寝ている姿は、むしろ惨めにさえ感じます。その位ならば私は蟬取りの籠でも買つてやります。風呂屋へ回数多く連れていきます。

どうしても日帰りで連れていきたいのならば、海に居る時間を出来るだけ少くして

無駄なようでも早目に引上げるよう。折角海にいつたのだからというわけで、一刻も長いようという根性は、子供のためには捨てていただきたいことを親たちに話しておきましょう。

一、二日の行程しか組めないのなら、私ならばむしろ中止します。そして家で思い切り遊ばせます。ランニングシャツをきせて、皮ふの露出面を充分に日に焼いておきましょう。蠅取りでも、何でも戸外で充分遊ばせることに画意したいものと思います。

乾布まさつの計画も意義深いことでしよう。特にこの冬は風邪引きの多かつた子供には来るべき冬に備えて、夏から準備をしておいて欲しいと思います。その他に、手をよく洗うこと帽子をかぶること、などの注意もしておいて欲しいことです。

兎に角、夏の計画、殊に保健上の計画を立てさせて、それについて検討を加えることは是非実行していただきたいことと願つて止みません。

(二)

海や山の積極的な効果は、紫外線と新鮮な空氣にあります。たしかに山や海で夏をすごした子供は、その後病氣が少い。従つてどの子も連れていきたいと思ひます。

しかし、短時日の行程で失敗した例は少くありません。土地の様子に研究が足りなくて、行くと間もなく疫病で子供をなくしたという例も知つています。従つて日取りや行く先の土地の検討は充分にして頂きたいことです。

残つた子供ですが、親たちから保育をしてくれとせがまれて、夏季保育の計画をなさる先生方もあると思ひます。本当に御苦労様ですが、暮しのゆたかでない家庭の子供が多い日本のことですから、我が国では夏の保育も考えることは適切なことと申せましょう。保育所では夏休みはないのです。

夏季保育に當つて、大切な問題は健康管理と増進でありましょう。健康増進としては、繰返しになります。が、紫外線に當て、うすぎで皮ふの鍛錬をすることです。充分に日焼けさせること、それが皮ふにビタミン

夏季保育誌上講習会

夏季保育誌上講習会

Dを作ることにになり、同時に皮ふの鍛錬にもなるのです。従つて戸外保育を主に考えていただきたいと思ひます。お絵かきやお話も、緑蔭を利用していただきます。

戸外保育の際に注意したいことは日射病の予防です。必ず帽子をかぶること。之を子供たちに守らせましよう。子供は帽子をうるさがり、放り出したらま鬼ごっこなどして、顔を真赤にします。帰宅してから熱を出した子供もありますから、帽子をかぶることはお約束しましょう。

水分の補給も大切なことです。湯沸しをいくつか必ず備えておき、湯ざましがいつでも飲めるように。殊に走り廻つて汗を出したあとは、皆で代り番に飲ませます。同時に勝手なところで、きたない手に水をしゃくつて飲むようなことはさせないで頂きたいことです。

(三)

夏季保育の必要性は、災害予防にもなると思ひます。ご存じでしょうが、我が国の

子供、殊に四才児が何で一番多く死ぬかと申しますと、災害による死亡であり、その中の大きなものが水死即ち溺れて死ぬことであります。溺死は当然親の注意不行届きから来るものですが、我が国の親たちは非常に忙しい。従つて十分な監督がしにくいというのが現状であります。

幼稚園に入園を許可する際に、「どうして幼稚園に入りたいのですか」ときく先生方も多いと思ひます。その際、幼稚園教育の目的に添つて、正しく答える親が多い、即ち「子供の心身をすこやかにのばすため」と答えることでしようが、本当は「家においておくとうるさいから」であり、「幼稚園で面倒をみてもらいたい」からという親が多いのであります。勿論こうした親の希望におもねる必要はないが、むしろ之が社会的な要求であり、この要求が満たされていなくために、子供が災害に会つてゐる、ということも考え合せていただきたいのであります。

話が横道へそれましたが、今年こそは先生方の手で、溺死を予防したい。そのため一人て川にいつてはいけない、用水池の

周囲で遊んではいけない、ということをお話を上手に作つていただきたいと願う次第であります。

溺死は全く悲惨であります。親としてもあきらめきれないことであります。こうした話を耳にしない様になりたいものから心から念願いたします。

(四)

夏休みの間に、「えきり」でなくなつたという話を時々耳にいたしますし、私も私共の幼稚園に来ていた可愛い一人娘を「えきり」でなくしたときの親たちの私共の光景を今でも忘れません。全く一日半の出来ごと、避暑先から東京へ連れ帰る暇もなく、私も医者として手の施し様がなかつたのです。午後からばんばんが痛いといつた、熱を測つたら四〇度ある、間もなくけいれんが始つた、下痢が始つた、薬の乏しい田舎のことで、土地の医者も思案をしている中に、次第に心臓が弱つて、翌日の夕方には死んでしまつたのです。

我が国では、他の伝染病は終戦後

夏季保育誌上講習会

夏季保育誌上講習会

減少してきているのに、赤痢、疫痢だけはこの数年上昇の一路を辿っているのです。恐らく今年も大へん流行するのではないかと案じられます。

この病気は、必ず口から入って消化器、特に腸に変化を起させるのですから、口に入るもの即ち飲食物を第一に、子供は不潔なものを口にすることをくせがありますから、そのくせを第二に、注意をすればよいのです。

飲食物にどうして赤痢菌が入り込むか、之の第一は飲食物を扱う人の「手」第二は食べる際に持つ「手」第三に蠅の附着などであります。

手の中で最も恐ろしいのは、保菌者の手であります。同じ様に赤痢菌を飲み込んで、発病する人と発病しない人があります。発病しない人の中で、全く健康な人と多少の下痢程度で終る人がありますが、多少の下痢程度で終る人が恐ろしい、自分は極く軽い赤痢とは知らない、それでいて赤痢菌は排出しているのです。その人がよく手を洗わないで飲食物をいじると、その中

に菌が混入する恐れがあるのです。それを飲食すると大変なことになるので、お母さんがそうであつた為に一家が全滅したという例があります。それ故、わずかな下痢も油断が出来ませんし、それよりもなお、「手」をよく洗うこと、石鹼でこしこし洗うことが大切であります。

子供たちには、手をこしこし洗う習慣は夏の前に改めて注意して欲しいことです。水が無駄になるほど使うことも許しましょう。石鹼を無駄にしても叱るのはやめましょう。兎に角習慣をつけて欲しいのです、それと同時に、お母さんにもその習慣をつけるよう、子供を通して家庭への教育を推進していただきたいとお願ひする次第です。更には、お母さんを通じて、家中で「手」をこしこし洗うことにまで到れば、幼児の健康教育万才といえましょう。

こんなに注意をしていますが、赤痢になる子供があるのはどうしてでしょう。それは家庭以外で調理、製造された食食物、飲み物に対する注意が足りなかつたためです。わずかなお金を惜しんで名のない店、不潔な店で買つたりすると、その災いを負うこ

とになりますから、必ず信用のあるお店から買うようにしましょう。安もの買ひの銭失いは、ここでは深刻です。赤痢などにかかると二万や二万のお金は飛んで消えます。トンカツが二円安い三円安いどころではありません。

氷ものは出来るだけ与えないようにしたいものです。毎年新聞でアイスキャンデーの中のばい菌について報告されています。行商のものなどでは、下水の水と同じ位のばい菌がいた例が報告されたことがあります。殆ど栄養にならない、おなかを冷やす——どうみても得なお菓子とはいえませ

ん。
火を通してたべる。調理して間もなくたべる、皮をむいてたべる、手を洗つてたべる、とにかく口に入るまでにばい菌のつく余裕を与えなければ、絶対に赤痢疫痢にはかからないのです。こうした話は、夏になる前に園長さんから母親へ是非話をしておいてもらいたいと思います。

今年はどうか、去年よりも赤痢が少いように、少くとも幼稚園、保育

夏季保育誌上講習会

夏季保育誌上講習会

所に通っている子供の中からは、この不名誉な病氣にかかるものがない様に、と祈つて止みません。

(五)

汗をかき易い、ばい菌が繁殖しやすい、虫などに刺され易い——などの原因が重つて、皮ふの化膿性の病氣が、夏は非常に多いものです、一日一回は必ず入浴又は行水をつかわせて、汗と埃とをすつかり落して、床に就かせるように指導しましょう。

虫に刺されたところを、子供はさかにかきます。従つてその毒を消す薬、例えばアンモニアなどは小壇に入れて、子供でも脱脂綿につけて自分で刺し口にあてがえるように指導しておく、腫れやかゆみをずい分防ぐことが出来ます。又、爪のびているとかいた際の皮ふの傾は深いし、爪にあるばい菌をすり込むことになりまますから特に注意して爪は切つておくようにしたいと思ひます。

殊に虫に敗け易い體質の子供は、夏の清潔には特に注意して欲しいことです蚊は日

本腦炎の媒介者です。日本腦炎にかつたあとは、智慧がおくれたり、いろいろ具合の悪い点をのこしますから、蚊は目の敵にしてもよいと思ひます。夏には蚊が出ることを普通に思い、或いは出ないと淋しいなどという詩人がいるのは困りものですが、皆で蚊を退治する方法を考えましょう。蚊をなくした村や町のお話など、先生方が注意して、お母さん方に話しておやりになることは意味のあることと思ひます。

(六)

夏にも風邪が流行することがあります。それはしばしば「ねびえ」という様な形、即ち下痢が主な徴候で子供をいためつけることがあります。風邪は主に伝染病ですから、家の中で誰かが始めると、なかなか防禦が困難ですが、冷たいものを沢山のんだり蒲団をはいで寝たり、水の中に長くつかつていたりすると、それが病氣を誘発しますから、注意が大切です。

おなかの病氣は、それが赤痢か、大腸カタルか或いは寝冷えか、医者でもなかなか診断のむずかしいことがありますから、自

分勝手な治療法を行わずに、必ず医者に診てもらふことをおすすめていたします。

(七)

今年の夏も、日本の子供たちが、一人も病氣や災害のために欠けないよう、それのみか、冬を目ざして健康の貯えを充分にするよう、私共幼児の保育にたずさわつてゐる者がいろいろな方面から努力をしていきたいと思ひます。これが幼児の教育を更に振興し、よい日本を作る一助となることを確信しております。

☆

☆

☆

夏季保育誌上講習会